火曜５限　中国思想史

～わけわからん固有名詞満載のノートの注釈的存在～

’14文科三類１１組　アリス・作

07.04.2015　全体の流れ

春秋戦国時代（BC 770 ~ BC 247）は、御存じの通り諸子百家がわちゃわちゃしてる時代

・『史記』（前漢）by司馬遷・・・陰陽家、儒家、墨家、名家、法家、道家

・『漢書』（後漢）by班固・・・＜**九流十家**＞ 儒家、道家、陰陽家、法家、墨家、名家、縦横家、雑家、農家、＋小説家　＜**芸文志**＞史書が叙述する時代の朝廷の蔵書目録のこと。『漢書』が筆頭。

**☆儒家**

キーワード：孔子、孟子、荀子、焚書坑儒（秦）

前漢の武帝の時代に五経（易経・書経・詩経・礼記・春秋）が重んじられた。そして、徳教や政教と呼ばれるようになった。しかし、儒教とは、まだ呼ばれなかった。魏晋南北朝になると、**周孔の教**と呼ばれるようになった。この周というのは**周公旦**という人物のことで、周王朝の基礎を築き、孔子も尊敬した人物である。隋唐の時代になると、儒教という名で通るようになった。

**☆道家**

キーワード：老子、『老子道徳経』

**黄老：**黄＝黄帝、老＝老子。黄帝は無為の政治思想を実践した古代の帝王とされ、一方、老子の書とされる『老子道徳経』も無為の治世が主なテーマ。そこで、戦国時代末から前漢にかけて黄帝と老子が一体化し、無為統治を説く**黄老思想**が流行した。漢代初期には政治イデオロギーとして尊ばれたが、前漢の武帝の時代になると儒教が国家教学として取って代わる。この頃から黄老は神仙的な性格が強まり、政治思想ではなく神仙術や道家道教を指すことになっていく。

**老荘**：老子と荘子がまとめてあつかわれるようになったのは、前漢の百科的思想書『**淮南子**』に初めて見え、魏晋南北朝時代のころの**玄学**において『易経』『老子』『荘子』（これらを**三玄**という）があわせて学ばれるようになってからである。

**顧歓**（こかん）：『**夷夏論**』を書いた六朝時代の道士。「夷」（異民族）の法である仏教と、「夏」（中華民族）の法である道教との、優劣関係を論じたものである。そこでは、消極的に破悪を実践する仏教よりも、積極的に興善を行なう術である道教の方が、優れているとする立場に立っており、夷狄の法である仏教に従う要のないことを論じている。

**☆神仙家**

**神仙説**：中国の古い神話に由来し，戦国時代に興り，秦・漢代に流行し，魏晋時代に頂点に達した神秘的思想。神仙は人間の現実的欲望の実現者であり，不老不死であるとする。神仙となるために，修行や服薬の法があり，その方法をめぐって，道教と習合した。

**鬼神信仰**：鬼神とは、基本的に人が直接知覚しえない霊的超越的存在を指す語であり、原則として鬼とは人が死してなる霊魂、神とは天地の自然神をいう。

**三神山**（東海三山）：中国の古伝説で、東方絶海の中にあって仙人が住むという蓬莱山(ほうらいざん)・方丈山・瀛州山(えいしゅうざん)の三つの山。

**崑崙山**（こんろんさん）：中国古代の伝説上の山岳。中国の西方にあり、黄河の源で、玉を産出し、仙女の西王母がいるとされた。仙界とも呼ばれ、八仙がいるとされる。

**導引**：神仙家が用いていた不老長生のための養生法。身体の屈伸運動や呼吸法である。動物を真似るもの、立って行うもの、臥して行うもの、座って行うもの、棒を用いるものなどがある。前漢の馬王堆の墓より「導引図」が出土し、その具体的な姿が明らかとなった。

**吐納**：体内の古い気を吐き，体外の新しい気を取り入れる呼吸法のこと。食気ともいう。**辟穀**といって、穀物を食べない手法もある。張良や劉邦も行ったとされる。

**☆仏教**

後漢初期にインドから西アジアを通ってやってきた。仏法とも呼ばれた。

**孫綽**（そんしゃく）：『**喩道論**』を著した、東晋の文学者。仏は道を体得しながらしかも衆生に感応して教え導くものだと説く。

**僧祐**（そうゆう）：『出三蔵記集』『弘明集』を書いた、梁（南北朝時代）の律僧・仏教史学者。梁の武帝の厚い帰依を受け，僧事の疑わしい部分を決した。斉の文宣王や梁の武帝の信任厚く、江南仏教の第一人者となる。現存最古の経録『出三蔵記集』や儒仏道の三教の交渉資料を集めた『弘明集』を撰した。

**☆宗教の優先順位**

**唐：** 道教＞儒教＞仏教

唐の初代皇帝である**李淵**が**李耳**（老子）の子孫であるとされた。漢民族ではない鮮卑系の李という家系をはぐらかす手段としても利用された。

**元：**ラマ教＞中国仏教＞道教＞儒教

ラマ教というのはチベット仏教の俗称。**パスパ**（チベット・サキャ派の高僧）のように、**帝師**（皇帝の先生）となった人物もいた。

**☆三教の相互作用**

道教・儒教・仏教は互いから完全独立だったわけではなく、影響を与え合っている。例えば、宋の時代の**朱子学**（朱子による儒教の学問体系）は**理気二元論**（万物は理と気から成るとする）を唱えた。**理**（本性・本質）とは仏教的な要素、**気**（物質・存在）は道教的な要素である。そして、朱子学の批判から出発した儒教の学問体系である**陽明学**も、仏教の一派である**禅**の影響を大きく受けている。陽明学は**心学**とも言われる。心学とは、真の心に尋ねゆき、そして自らをその心に従って正すことである。自らが自らの本来の心、全てに通ずる良知へと至り、そしてそれを致すことである。常を尋ねるとはそこに安んずることであり、安んずるとは単に止まることではなく、無の境地・寂然として動かざる者へと至ることにあり、これは禅にも通じる考え方である。

14.04.2015　儒教について

1. **原始儒家**

**書経**は殷末、**詩経**は周初期に出来たとされる。春秋時代、**孔子**が儒教を体系化。その教えは『**論語**』に記される。**顔淵**篇にある「**仁**」（真心、思いやり、人間らしさ）に基づく社会の在り方が**礼**であるとした。仁と礼により調和のとれた社会が、孔子の理想であった。

孔子からは二つの流れができる。「孔子→曽子→子思→→**孟子**」と「孔子→子夏→→**荀子**」という流れである。孟子は、**仁**と**義**（不正を憎む心）を主張。**王道政治**（仁義の徳による善政）を説いた。つまり、**覇道政治**（武力に基づく政治）とは逆である。そして、人間にはそもそも**仁・義・礼・智**という**四徳**があるという**性善説**を唱えた。荀子は、**性悪説**を唱え、だからこそ礼制を設定して社会を安定させようと主張した。彼の時代の政治状況は孟子の頃より緊迫していたという背景がある。

1. **漢唐訓詁学**

秦の焚書坑儒を経た後、漢代になると黄老思想が勢力を増す。しかし、７代目武帝の時代に**董仲舒**が儒学を官学化し五経が設定された。**楽経**を含めて六経とされることもある。そして、**五経博士**が置かれた。そして、そのうち経典の細かい分析が盛んになり、これが**訓詁学**となった。後漢の**馬融**から始まり、**鄭玄**が集大成した。漢から六朝時代にかけて、**経典**に関する**注釈書**が盛んになった。しかし、古典は時を経ると難解となるから、注釈書の更なる注釈書が唐から宋の時代に作られた。これが**疏**である。唐では陸徳明という人物が活躍。そして、**孔穎達**が疏の決定版たる『**五経正義**』を作った。宋代では、**十三経**[易経、書経、詩経、礼記（周礼・儀礼・礼記）、春秋左伝（左氏伝・公羊伝・穀梁伝）、論語、孟子、孝経、爾雅]の注疏が作られた。

1. **宋明理学**

宋代以前、学者は学んでも実践しなかった。そのうち、訓詁学について「こんな文字ヲタクやっていて良いのか？」と言う儒学者たちが発現。唐の時代から、**韓愈**（「**原道**」という論文で儒教のスケールの大きさを、道教や仏教を意識して主張）や**李翺**（「**復性書**」という論文で“情”(喜，怒，哀，懼，愛，悪，欲などの感情)の動きは“性”(善なる本性)の発現をくらませる元凶であるから，心を寂然として動かざる状態に保ち“性”に復帰することが聖人に至る道だと説いた。韓愈から排仏の主張を受けついではいるが、彼自身の中では仏教と道教の思想を融合し、むしろ禅宗の達観に接近している。）など先駆者がいた。

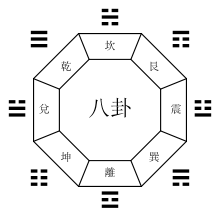
そこで**北宋五先生**、現れたる。**周敦頤、張戴、程頤、程顥、邵雍**である。周敦頤は『**太極図説**』で世界がどう出来たかを図示した。張戴は世界を気の思想で説いた。そして、朱子により北宋五先生の内容も含めて集大成されたのが**朱子学**である。**理気二元論**を主張し、理は世界を成立させ個々にも宿っている根本的法則で、気は万物を形成している素材だとした。そして、**性即理**を唱えた。混濁した「気」に汚されない「性 (本然の性) 」こそが理であるとする説である。性と情をはっきり区別したうえで，その性を涵養するためにきびしい道徳的，学問的修養を要求する朱子学独特の厳格主義の基本となっている。

**陸九淵**も王陽明と似たことを既に言っていたのだが、さて明の時代、**王陽明**が朱子学に対するアンチテーゼを出した。朱子は、個々の理を解明して全ての理を得るのだと考えており、科挙試験の内容はほとんど朱子のことだった。王陽明もマジメに、理のある竹を究明しようと一週間考え込んだがノイローゼになった。「これじゃ、アカン！死ぬ！」そこで、もう究明は必要ないのだと主張し、**心即理**を唱えた。心を性と情に分けず、そのまま心を理としたのである。

つまり、朱子学（性理学）と陽明学（心学）を合わせて、宋明理学。

1. **清朝考証学**

考証学とは、訓詁学への回帰のような実証主義学問である。文献に根拠を求めようと動いたのだが、訓詁学よりもっと精緻である。コンピューターなんて無い時代、個人の恐ろしい執念でやってのけたのである。ここで、**新疏**の作成が進んだ。パイオニアとして**戴震**がいるが、彼は宋儒の理気哲学に反対し，**気の哲学**を説くとともに，訓詁の学により経書中の聖賢の道を明らかにし，法則性を重視した。そして**段玉裁**は戴震の精神を継いだ弟子で、彼は『**説文解字**』の注を作成した。これは、この時代の疏を色々収めた『**皇清経解**』に収録されている。しかし、清代でも半分以上の知識人は平々凡々に朱子学を学び役人になった。



21.04.2015　儒教の内容

**☆五経**

1. **易経（周易）**

夏の**連山**、殷の**帰蔵**、周の**周易**、という**三易**があったが、周易が残った。世界の根本を説明する文献が易経であるとされた。

**八卦**：古代中国から伝わる易における8つの基本図像。また八卦を2つずつ組み合わせることにより六十四卦が作られる。前漢で陰陽思想が流行した時、「―」が陽で「—－」が陰だとされた。

**十翼**：『易経』の 10編の注釈。「彖伝」㊤㊦，「象伝」㊤㊦，「繋辞伝」㊤㊦，「文言伝」「説卦伝」「序卦伝」「雑卦伝」から成る。『易経』を単なる占いの方法の書から人事変化の理を探索する哲学書に転換させる理論的根拠を与えた文章で，中国哲学に深い影響があった。

1. **書経（尚書）**

**今文尚書**（漢の**隷書**。秦の時代の焚書坑儒のため口承となっているものを記した）と**古文尚書**（戦国時代に**蝌蚪文字**で書かれた）の二つがある。どちらが正しいのか議論された結果今文尚書が優勢になったが、唐の時代に**孔穎達**が古文尚書を正統として選んだ。

1. **詩経（毛詩）**

周王朝初期に各地で歌われていた詩歌を集めた最古の詩歌集。日本の万葉集的存在で、素朴な歌風である。最重要文献として学生に教えられた。これに、儒教が理想とする政治やそのような政治の中に生きる民を読み取るのである。ちなみに、地域ごとに詩歌が分類されている。漢代に**毛亨**という人がこれに解説書たる**毛亨伝**を付けた。

1. **礼記**

社会や生活における様々な礼儀や作法をまとめたもの。３種類ある。「**儀礼**」（**礼経**）が一番の基本、「**周礼**」（**周官**）が周の官僚制度についてまとめてあるもの、そして「**礼記**」が「儀礼」に注釈を付けたものであったが色々なものが加えられ総合的になった。はじめは「儀礼」が正統とされたが、唐で「礼記」が選ばれた。

1. **春秋**

春秋時代、孔子がいた魯の国の歴史をまとめたもの。これに三種類の**伝**（注釈）がくっ付いた。三伝という。これらが経典化した。公羊高による**公羊伝**、穀梁赤による**穀梁伝**、左丘明による**左氏伝**である。前漢では公羊伝が正統とされたが、唐では左氏伝が選ばれた。

**☆四書**

**論語、大学、中庸、孟子**。韓愈は「孟子」と「大学」の重要性を説き、弟子の李翺も同じく。朱子は四書の重要性を強調し、「四書五経」と言った。「大学」と「中庸」は「礼記」の中にあるが、それらを独立させたということである。

**☆徳**

性善説を唱える**孟子**は、人間には誰でも「**四端**」の心が存在するとした。「四端」とは「**惻隠**」（他者を見ていたたまれなく思う心）・「**羞悪**」（不正や悪を憎む心）・「**辞譲**」（譲ってへりくだる心）・「**是非**」（正しいこととまちがっていることを判断する能力）の4つの道徳感情である。この四端を努力して拡充することによって、それぞれが**仁・義・礼・智**という人間の4つの徳に到達するというのである。



前漢の**董仲舒**は、四徳に加え、**五行説**にもとづいて「**信**」を足した。五行説とは、万物は**木・火・土・金・水**の5種類の元素からなるという説である。**五常の徳**は、それに対応して、**仁・礼・信・義・智**である。五方の対応として、順に**東・南・中・西・北**とされた。五臓の対応として**肝・心・脾・肺・腎**、五時の対応として**春・夏・土用・秋・冬**とされた。董仲舒は、天と人とに密接な関係があり、相互に影響を与えあっているという**天人相関説**を主張した。

**☆陰陽五行説**

陰陽五行説とは、中国の春秋戦国時代ごろに発生した陰陽思想（森羅万象、宇宙のありとあらゆる事物をさまざまな観点から陰と陽の二つのカテゴリに分類する思想）と五行思想が結び付いて生まれた思想のこと。**陰**＝日が隠れること、消滅を司る気、濁暗。**陽**＝日が差すこと、成長を司る気、清明。

この思想では、万物は分化物である。まず**太極（道）**から**陰陽**に分かれ、**四象**に分かれ、**八卦**に分かれ、**六十四卦**に分かれ・・・という具合である。そして、木・火・土・金・水という５つは独立ではなく、各々が次を生み出すのである。これを**相生**という。これは陰陽家の**鄒衍**が戦国時代に唱えた。宋代になると、万物の形成については『太極図説』が出された。

ちなみに、王朝にも五の対応があるという理論を用いた。堯・舜・夏・殷・周・漢という流れである。秦は**法家思想**の焚書坑儒を行ったため無視されている。

28.04.2015　人性論

人性論とは、儒教における人間の本来性をめぐる論説。

春秋時代。**孔子**『論語』の陽貨篇。「性相近也、習相遠也」＝人間の生来の性質は似たようなものである。その後の学習によってその性質に違いが生まれるのである。「唯上知与下愚不移」＝（多くの人は学習・努力によって変われるが）ただ最高の知者と最低の愚者は変わることがない。

戦国時代。『**孟子**』の告子篇では**性善説**が唱えられ、墨家の**告子**の**性無善無悪説**に対抗した。『**荀子**』の性悪編では**性悪説**が語られ、礼による後天的な修正の必要性が説かれた。

前漢時代。**董仲舒**の陰陽思想では性善が陽で性悪が陰で人には両面あるのだと説かれた。**揚雄**による『法言』の修身篇では、「人性善悪混ず」と言われた。

後漢時代。**王充**は『論衡』の本性篇で、人には三品あると書いた。善人・中人・悪人である。そして孟子の性善は中人より上、揚雄の善悪混は中人、荀子の性悪は中人より下であると述べた。**荀悦**の『申鑒』では、人には九品あるとされた。おおまかに言うと、教えて悪が分かる人々、法により悪が分かる人々、どうしようもない人々、などというように分類されている。また、班固の『漢書』には「古今人表」というものがあり、著名人を九品に分けている。

唐代。**韓愈**の論文「原性」にて**性三品説**が唱えられた。品には上等・中等・下等があり、孟子・荀子・揚雄が扱った範囲は中等であると述べた。**李翺**は「**復性書**」にて**涅槃経**の**仏性**を唱え（「すべての衆生が仏性を持つ」）、みんな区別なく善であり絶対知を備えていると説いた。韓愈は仏教を持ち出した彼に反発した。

宋代。北宋五先生の考えが朱子によって集大成される。「**性二元論**」が説かれる。ここで、人を**本然の性**（すべての人が平等に持っているとされる、天から与えられた自然の性）と**気質の性**（各人の受けた気の**清濁**による、それぞれに異なる現実的、物質的な性格）に分けた。そして明代では陽明学の**心即理**が説かれた。

清代。**戴震**の**気の哲学**において、性は**血気心知**である。『礼記』の楽記篇に、「夫民有血气心知之性」とある。血気は肉体的活動、心知は精神的活動で、後者が前者の欲望を調整するのである。そして、心知が理を導き、理が善を導くのだとした。

12.05.2015 道教について

1. **道家の拡大（先秦～後漢初期）**

（１）　老子、黄老、老荘、道家　（07.04.2015参照）

（２）　神仙説、東海三山、崑崙山、神仙術（導引、吐納）、羽人（仙人・道士など空を飛ぶことのできる人）　（07.04.2015参照）

（３）　鬼神信仰、**符呪**（まじない）

東晋の**葛洪**による『**抱朴子**』は神仙思想と**煉丹術**の理論書である。煉丹術とは服用すると**不老不死**の仙人になれる霊薬（仙丹）をつくる方法。

**催生符**といって、子どもに恵まれるようにするお札もあった。

1. **諸派の勃興（後漢～六朝時代）**
2. **太平道**

後漢の**干吉**が『太平清領書』に基づいて開いたといわれ，そののち**張角**が呪術を行なってこの説を広め，十数年の間に信徒数十万となった。実際の活動は**首過**（天や鬼神への懺悔）や**符水**（符を入れた水を飲む）などで病を癒すようなものだったという。**黄巾の乱**は後漢末に張角が率いた農民反乱。この時期は外戚，宦官，官僚が権力争いを繰返して政治が乱れ、地方では天災飢饉が続発し，農民の反乱が絶えなくなっていた。

（２）　**五斗米道（天師道）**

**張陵**が老子から呪法を授かったと称して創始。自ら**天師**と称し、祈祷によって病気を治し、謝礼として米五斗を納めさせた。孫の**張魯**に至って教説が大成、組織が確立した。一般信者を**鬼卒**、それをまとめるものを**祭酒**、更にその上に**治君・師君**を置く階級制があった。この結社は一大宗教王国を築いたが、魏の曹操の征伐を受けて弱体化した。

（３）　**上清派（茅山派）**

彼らは**上清経**を重んじた。この中でも最高の経典が『大洞真経』である。開祖は西晋の魏華存という女性とされる。彼女の弟子が**許謐**で、神仙道の教示を得ようと熱心に神降ろしを行った。

（４）　**霊宝派**

三国時代の呉の人物である**葛玄**、東晋の**葛洪**などが伝えた**霊宝経**を重んじる。この経典の中心は霊宝五符であり、それを備えていれば**東西南北**のどこへいっても**五方天帝**が守ってくれるので安全・長生不死になるという。その後、東晋末に**葛巣甫**があらわれた。彼は従来の霊宝経に新しい教えを捏造し加え、仏教思想（輪廻転生・一切の衆生の救済）を取り入れた。

（５）　**三皇派**

**三皇経**（三皇文）という、神格化された三皇（天皇・地皇・人皇）から伝わったとされた呪術的文書を重んじる。これを**帛和**が石室で得たとされ、それがいつしか**鄭隠**が入手して**葛洪**に授けたことになる。しかし、この経緯については諸説ある。

（６）　**金丹道**

晋の**葛洪**の著『**抱朴子**』などにみえ，仙人，道士たちが不老不死の薬の金丹を錬製した方法をいう。

1. **統合と成熟（六朝時代末～唐）**

**三洞四輔**

道教経典の分類規定。『道蔵』内の七分類のこと。梁の**陶弘景**によって完成された。括弧の中はそれぞれの対応である。

**洞真経（上清経）**・・・存思（体内神がどのような形になっているかを瞑想して思い描く）という方法で神仙になる。これを説いたのが『大洞真経』と『貴庭経』。

**洞玄経（霊宝経）**・・・代表経典として『度人経』。みんなで神仙になろう。大乗仏教的。

**洞神経（三皇経）**・・・『三皇文呪術』が最も呪力が強かったとされる。

**太玄経（老子）**・・・『老子道徳経』や、老子が神格化して説いた『老子西昇経』など。

**太平経（太平道）**・・・太平聖君が乱世を止め平和な世を作ってくれる。

**太清経（金丹道）**・・・『周易参同契』や『抱朴子』。

**正一経（五斗米道）**・・・守るべき紀律や儀式の方法をまとめた。文献は、まぁ、いろいろ。

1. **経籙三山と華北三派（宋元）**

**唐宋変革**の時代。魏晋南北朝から唐まで政治・文化の中心だったのは「貴族階級」であったが、科挙制度が実効力を持ち始めた事などから「士大夫階級」に重心が移った。貨幣経済が始まった。軍への「文民統制」が行われた。都は開封になった。

宋代の江南地域では、**経籙三山**と呼ばれる**龍虎山**（**天師道系**、張魯の子である**張盛**が住んだ）、**茅山**（**上清派系**）、**閤皂山（霊宝派系**、**葛玄**がここで昇天）の3つが過去からの正統をそれぞれ主張しながら権威を誇った。しかしやがて龍虎山が隆盛を誇り、江南全域の総本山となった。その頃には教派名は**正一教**と呼ばれるようになった。

一方、華北では金～元の時代に**太一教（**創設は**蕭抱珍）・大道教（**創設は**劉徳仁）・全真教（**創設は**王重陽。七真人**が拡大に尽力。**）**の３つが出来た。全真教は残ったが、あとの二つは消滅した。王重陽は、盛んに儒仏道の**三教一致**を標榜し、儒教・仏教をも含めた三教を摂取し融合しようとした。

1. **正一教と全真教（明清）**

**正一教系：　上清派、霊宝派、浄明道、清微派**

**全真教系：　龍門派、七真人の諸派**

19.05.2015　道教の根本経典

1. **『老子』（『道徳経』）**

**道**：　道教に限った用語ではない。儒教の『論語』にも見られる。「人が歩いてできる道」という原義から、道理や真理という意味に。人間は直接知ることはできない、人道も含め天地万物に満ちている根本とされる。

「道生一、一生二、二生三、三生万物。」（『老子』第42章）（c.f. 易経の考え ＝　太極→両儀→四象→八卦）

「天下万物生於有、有生於無。」（天下万物は有より生じ 有は無より生ず。）（『老子』第40章）→ ある意味、道＝無である。

**無為自然**：　有為（あれこれ考えて行う）は結局害であり、天下は治まらない。「無為而無不為。」（無為にして為さざるは無し。）

**柔弱と剛強**：　第36章に「柔弱勝剛強」とある。生きているものは柔らかく、死んだ物は硬い。木は柔らかい方がすぐ折れない。軍も、機動に柔軟性があった方が良い。つまり、柔らかい方が優れている。その代表として水がある。「上善如水。」

**長生久視（長久）：**道のあり方を体得した人間のあり方を徳と言うが、そういう人になれば長生久視が得られる。神仙説とつながっていく発想である。しかし、これは最終目標ではなく、目的はあくまでも道の理解で、長久は副産物。「谷神不死。」（『老子』第6章）→道の理想が谷神だ、谷神とは精神を養うの意味だ、などと解釈は色々。

1. **『荘子』　荘周・著**

内篇（７）、外篇（１５）、雑篇（１１）の３つ。計３３篇が現存している。

**万物斉同：**内篇の斉物論篇にある。この世の全てのものの価値は等しい。美醜・可否などの概念も道からみると等しい。例えば、天には色々あるけれども、地上から見れば青一色である。同様に天から見れば地上もそう。「人間は生死を別に考え、喜んだり恐れたりするが、間違っている。生死を区別しても意味は無い。」

**道の遍在：**知北遊篇にある。東郭子が「道はどこにある？」と聞いたら、荘子は「無所不在」「在螻蟻。」「在瓦甓。」「在屎溺。」などと答えた。

**長生不死：**神仙説では死を拒み生きようとするが、これは荘子の考えとは逆。外篇の在宥篇に黄帝広成子（黄帝の先生）が「天下を治めるにはどうすれば」と聞いた所、荘子が「そんなことより自らの身を修め長生不死になれ」と言ったとある。黄帝は日月と寿命を同じにするべく修行をした。

1. **三洞四輔**　（12.05.2015　参照）

**☆道の意味の追加**

1. 道＝気　道気論。これは気一元論につながっていった。
2. 道＝神　「道曰く～」という文献が出てくる。やがて「道者」とも書かれるように。

26.05.2015　神仙説と鬼神信仰を詳しく

**☆神仙説**

**東海三山と崑崙山、仙人や羽人、導引法、吐納**（07.04.2015　参照）

**黄帝内経：**　現存する中国最古の医学書。気の流れやツボなどについて書かれている。

**芝菌**：　**霊之**とも言う。漢方薬に使うキノコなど。仙薬（不老不死の薬）を作る。

**徐福**：　秦の方士。「東方の三神山に長生不老（不老不死）の霊薬がある」と具申し、始皇帝の命を受け、3,000人の若い男女と多くの技術者）を従え、五穀の種を持って、東方に船出し、「平原広沢（広い平野と湿地）」を得て、王となり戻らなかったとの記述がある。

**黄冶**：　**丹砂**を使う錬金術のこと。金は永遠性を持つとされ重宝された。それを自分の身体に取り入れて不老不死になろうという発想が生まれた。黄白（＝銀）の術とも呼ばれるようになる。晋では『**抱朴子**』を書いた**葛洪**が有名。唐の李世民の死因は金丹を飲んだからとされる。

**存思、上清派、三洞四輔**　（12.05.2015　参照）

**五行**（21.04.2015　参照）

**五倉の術：**五臓を意識して行う瞑想

**三部八景：**人体に二十四の神が宿っているという発想がある。

**三百六十骨節：**この骨節すべてに神が宿っているという発想がある。

**内丹術：**体の中に気が流れているが、それをメディテーションによってコントロールし、不老不死に出来るというもの。

**外丹術：**金石草木を服用する方法。**気功**（整体のようなもの）、**命宗**（気が中心、気の浄化を図る）、**性宗**（心が中心、心の浄化を図る、本性＝道とする）などがある。

**本然の性、気質の性**（28.04.2015　参照）

**☆鬼神信仰　（**07.04.2015　参照）

**禹歩**：　治水事業のため国内を旅して歩き疲れ、足を引きずるようになった禹の歩みを真似て旅の安全など様々な効用を求めた。